

科目名	文化情報論特講	担当者	アキクサ 秋草 ジュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	文化情報専攻での研究活動の基盤として必要なリテラシーの涵養を目的とする。言語・映像・音声をつうじた表現活動や、教育活動への理解を深めるために、狭義の専門・研究分野にとらわれずに広く、多様なジャンル・分野・言語圏の実践に触れることで、研究者としての感性、問題意識を育ててほしい。また、人文学全般の思考の枠組みを理解するために、現在の欧米圏の学術書の文献の水準を理解できるようになることを目標とする。以上を達成することにより、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身に付けることを目指す。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>1) 修士論文の作成に必要な先行研究・情報の収集方法や研究倫理、それぞれの分野の研究の進め方について理解し、自律的に遂行できるようになる。</p> <p>2) 文化グローバリゼーションにともなう議論—文化の流通・翻訳・生産、文化の混淆・変容・生成、多文化共生等—を理解し、各自の研究を進めることで、こうした議論に参加し、寄与することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>学術的な用語を正確に使い、剽窃を避けて注や引用などを適切に行うことができるようになること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲 (教員の添削指導を含む) ・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>★通信授業のレポートについては、Manaba Folio の掲示板を使った相互学習・添削をおこなう。スクーリングのレポート (初稿のみ) については、提出後、Manaba Folio の掲示板で共有する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>★大学院の初年次教育にあたるため、初年次に履修すること。</p> <p><通信授業 (在宅学習) 2 単位分：基本教材 1 ></p> <p>1) 前期：基本教材 1 の (1) を精読し、参考図書等を参照して、レポート課題 1 をまとめる。</p> <p>2) 後期：基本教材 1 の (2) を精読し、参考図書等を参照して、レポート課題 2 をまとめる。</p> <p><スクーリング 2 単位分：基本教材 2 ></p> <p>・7 月中旬に 3 日間の集中面接授業を実施する。原則として必修科目履修中に、全日程出席する。場合によっては補講を実施する。</p> <p>・通信による在宅学習に対するアクティブラーニングの機会と位置付け、研究方法の基礎に関する 3 専攻合同講義のほかに、文化情報専攻の教員によるオムニバス形式の講義、基本教材 2 の反転授業 (事前視聴と対面の討論)、基本教材の著者等を招いたビジターセッション等を実施する。受講した内容を基に、レポートを 2 本まとめる。</p>		
スケジュール	<p><通信授業 (在宅学習) ></p> <p>1) 前期：レポート課題 1 初稿〆切 6 月 30 日⇒最終稿〆切 9 月 20 日 (前期レポート〆切日)</p> <p>2) 後期：レポート課題 2 初稿〆切 11 月 20 日⇒最終稿〆切 2018 年 1 月 15 日 (後期レポート〆切日)</p> <p><スクーリング (対面授業) > 夏期 (7 月 14 日～16 日) / 補講 (9 月 1 日～16 日)</p> <p>1) スクーリング・レポート課題 1：スクーリング 1 週間後 (初稿のみ)</p> <p>2) スクーリング・レポート課題 2：スクーリング終了の 1 か月後 (初稿のみ)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学習)	50 %	基礎的学術論文作成のスキルが習得されているか、課題に応じた内容となっているかを評価する。
	スクーリング	50 %	レポートの内容 (論旨、構成、独創性) 課題 1：10%、課題 2：30% 参加度 (討論、発表) 10% ★出席率は 60%以上とする。
履修者への要望	<p>・基本教材 1 のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバック・相互学習による推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。上述したレポート〆切日より提出が遅れた場合は、成績が低くなることに留意すること。引用については盗用にならないように重々注意すること (悪質な場合は単位が取得できなくなる)。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1 (通信授業／在宅学習用)	
教材の概要	<p>(1)著者名： デイヴィッド・ダムロッシュ 教材名： 『世界文学とは何か?』(国書刊行会, 2011) ISBN:978-4-33-605362-6 5,600 円+税 フランコ・モレッティ</p> <p>(2)著者名： 『遠読——<世界文学システム>への挑戦』 教材名： (みすず書房, 2016) ISBN-13: 978-4874246733 4,600 円+税</p> <p>教材(1)は「世界文学」という概念を、現代のアメリカの文脈で論じたもので、時代・地域・言語もさまざまな表現活動を「生産・流通・翻訳」という三つの観点から分析している。 教材(2)は現代において文学を論じるうえで、ひとつの作品を丁寧に時間をかけて読む「精読」ではなく、統計や二次資料などを活用した「遠読」という新しい手法を提唱している。</p>
参考図書	<p>秋草俊一郎編『文学 特集「世界文学」の語り方』(岩波書店, 2016年10月号) ISSN: 0389-4029 2,700 円+税 パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』(藤原書店, 2002) ISBN: 978-4894343139 8,800 円+税</p>
履修上のポイント	<p>21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が「世界文学」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>『世界文学とは何か?』における文化・文学の「流通」, 「翻訳」, 「生産」の考え方について説明したうえで、ひとつ以上の章をとりあげて要約し、そのアプローチを参考にして、具体的な作品について論じなさい。参考文献・注・引用をのぞいた本文 3,500 字以上とする。ただし説明と要約のパートは自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ 800 字以内程度におさめること。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること 留意点：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。</p>
レポート課題 2	<p>『遠読』における「遠読」の考え方について説明したうえで、ひとつ以上の章をとりあげて要約し、そのアプローチを参考にして、具体的な作品(の一部)について論じなさい。参考文献・注・引用をのぞいた本文 3,500 字以上とする。ただし説明と要約のパートは自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ 800 字以内程度におさめること。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること 留意点：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。</p>

基本教材 2 (スクーリング用)	
教材の概要	<p>著者名： 秋草俊一郎, 井上健, 古賀太, 呉川, 椎名正博, Dorsey, John T., 保坂敏子, 松岡直美</p> <p>教材名： JMOOC 教材『文化翻訳入門—日本と世界の文化コミュニケーション—』 (講義映像, 配布資料: スクーリング開講前に提示・配布します)</p> <p>2017年1月11日～2月7日に開講した JMOOC 講座『文化翻訳入門—日本と世界の文化コミュニケーション—』(総合社会情報研究科制作)の講義映像と配布資料である。比較文化, 文学, 言語教育の研究者が、「文化翻訳」をキー概念に、文化の翻訳・翻案・変容の事例を取り上げ、解説する。</p>
参考図書	<p>(1)アンソニー・ピム著 『翻訳理論の探求』(みすず書房, 2010年) ISBN:978-4-62-207518-9 5,000 円+税 (2)二通信子, 大島弥生, 佐藤勢紀子, 因京子, 山本富美子 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会, 2009) ISBN-10: 4130820168, 2500 円+税</p>
修上のポイント	<p>オムニバス授業や基本教材 2, 参考図書(1)を通して「文化翻訳」の事例を知り、理解を深めること。</p>
レポート課題 1	<p>スクーリングの合同講義と専攻別講義の概要をまとめ、自分の意見を論じる。(1000 字～1500 字)</p>
レポート課題 2	<p>各分野の研究手法の講義や参考図書(2), スクーリングでの自身の研究計画の発表と討論を踏まえて研究計画書をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出する。(3000 字～4000 字)</p>